

3年2組

 もっとたくさんの人とふれあってほしいな
 ～ハッピーフェスティバルふれあい体験～


7月17日(金)に1年1組さんに向けて「ハッピーフェスティバルふれあい体験」の活動を行いました。この活動は、6月に行ったあさひのタイムで交流籍のお友達との交流でのハッピーへの餌やり体験の経験がきっかけとなって始まった活動です。

「ハッピーフェスティバルふれあい体験」では、どのようなものが必要で、どのように行えばよいかについて考え合ってきました。話し合いの結果「ハッピーの餌やり体験」「輪投げ」「クイズ」「グッズ」「チラシ・ポスター」「くじ引き」を行うことになりました。本番に向けて子どもたちは話し合ったり、準備をしたりしてきました。

「チラシ・ポスター」チームでは、3種類のチラシを作って、どのチラシを1年1組さんに渡すのか3年2組の仲間に投げかけ3つあった候補から1つに絞り、給食の時間に1年1組さんのもとへ学級訪問を行い、チラシとポスターを直接届けるまで計画的に自分たちで準備を進めていました。教室訪問では、1年生からのたくさんの質問に少し戸惑う場面もありましたが、これも1つのよい経験となったようです。教室訪問した時の映像を見返して「あー、いつやるかとか先に言えばもっとわかりやすかったかな」等、相手に伝わりやすい伝え方について振り返っていました。また、「ハッピーフェスティバルふれあい体験」当日は「チラシ・ポスター」チームの人たちが1年生を連れて各ブースへ案内をしました。「こっちあいているよ」「この袋に景品を入れてね」等、優しく声をかける姿がたくさんありました。

AさんとBさんは、準備の時間に自分たちが所属しているチームの活動になかなか入っていきませんでした。そこで、「今、一生懸命作っているキャラクターの折り紙を景品にしてもらうのはどうか」という担任の提案に対して、AさんとBさんからやる気満々の「やるー」という元気な返事が返ってきました。「輪投げ」「クイズ」チームにも担任の提案を伝えたところ「それいいね」という返事が返ってきました。この日からAさんとBさんの折り紙でのキャラクターづくりが始まるのでした。せっせと毎時間作っていました。

そして、迎えた「ハッピーフェスティバルふれあい体験」当日、開催直前まで折り紙を作っていたAさんとBさんは部屋へ来るなり元気いっばいに「持ってきたー」と部屋にやって来ました。そして、手には引き出しの透明ケースいっぱい折り紙のキャラクター



が入っていました。クイズチームの景品として渡すことになったAさん。クイズを答える1年生の様子をじっと見つめていました。そして、景品である折り紙をもらった1年生の喜ぶ姿がありました。これまでAさんとBさんにとって折り紙のキャラクターは自分自身が楽しむものでした。しかし、今回「ハッピーフェスティバルふれあい体験」で自分たちの好きなキャラクターの折り紙が1年生の手に渡り、喜んでもらえたという経験を通して、自分たちだけで楽しむものから人とつながり合えるものへと変容していったように感じました。Aさん、Bさんの自信にもつながっていったように感じました。

「えさやり体験」では、Cさんは総合工作室とハッピーの小屋を何往復もして、1年生に餌やりの仕方を説明する姿がありました。「えさやり体験」をする1年生を先回りするように懸命に駆け回って奔走していました。「ここに1回入れて」「ここを持って」と優しく伝える姿がありました。他の「えさやり」チームの仲間と一緒にやり方を説明したり、「触れそうだったら触ってみて。怖かったら無理しなくていいよ」とハッピーと触れ合ってもらうために伝えたりしていました。「怖かったら無理しなくていいよ」という言葉にも子どもたちの育ちを感じました。「ハッピーと触れ合ってほしい」「ハッピーと仲良くなってほしい」という思いをもっていたからこそ、無理に近付いて怖い思いをしたらハッピーが怖い存在となってしまう。だからこそその「無理をしないで」「自分のペースで近づいていけばいい」という思いにこれまでの子どもたちとハッピーとの触れ合いや関わりを感じたからです。ハッピーに思いを寄せて、そして、目の前の1年生にも思いを寄せた温かい言葉だったように感じています。そして、目の前に感じる1年生の笑顔から、3年2組の子どもたちは、ハッピーという存在を新たな側面を携えながら心の中に宿していったことでしょう。

後日、1年1組さんからお礼のお手紙が届きました。これまでに一生懸命学んだ平仮名や片仮名で心のこもった文字で書き表された感謝の言葉は、彩鮮やかな折り紙に記されたお手紙と共に3年2組の子どもたちの心に届いたことでしょう。

今回の活動の意義は如何なるものであったのか担任として今一度省察して、今後の活動の原動力としていきたいと思うのでした。

夏休み明けのくらしを子どもたちと共にどのようなものをつくり上げていくのか今から楽しみです。

